

エビデンスを生み出し、政策を導く ーデータに基づくグローバルヘルスの実践と展望ー

グローバルヘルスの政策立案において、健康課題に関する「知識のギャップ」はしばしば見過ごされてきた。正確なデータに基づく優先順位の設定が、いかに難しく、かつ重要であるかを、具体的な事例を交えながら紹介する。世界の疾病負荷研究

(GBD) は、400以上の疾患・傷害とそのリスク因子について、死亡率・有病率・障害調整生存年数

(DALYs) などを200超の国・地域で定量的に推計する国際プロジェクトであり、世界約2万人の研究者が参加する。WHO・世界銀行・ゲイツ財団をはじめ各国の政策立案に活用されている。GBDの全体的な方向性を統括する科学評議会の委員を務め、日本代表として研究を主導する立場から、GBDの概要と研究知見、および国際援助（ODA）の分野別配分を可視化する取り組みを紹介しながら、研究と政策の接点について議論したい。グローバルヘルスの財源が縮小するなか、エビデンスに基づく資源配分の重要性はいっそう高まっている。



東北大学災害科学国際研究所グローバルヘルス政策学分野、東北大学大学院医学系研究科・医学部（兼務）、慶應義塾大学医学部（兼務）、国際医療福祉大学大学院「食・栄養と健康」社会連携講座（兼務）

健康危機管理や保健政策の研究を推進。世界最大規模の疫学研究「世界の疾病負荷（GBD）」の日本拠点代表や科学評議会委員を務め、データ駆動型アプローチを通じて国内外の政策形成に貢献。また、栄養、レジリエンス強化、国際開発分野を含むグローバルなプラットフォームと協働し、政府開発援助の可視化ツール開発など多岐にわたる実務連携活動も展開。

2026年 5月28日（木）
16:30~17:30

WEB 開催
(ZOOM)

本セミナーは医学系研究科系統講義コース科目等の授業として振替可能です

お申し込み・お問い合わせ

東北大学災害科学国際研究所
「災害と健康」プロジェクトユニット

<https://forms.gle/g8bT9SaebVVkbvmQ7>

